



太巖寺

(通称 藤の寺)

浄土宗 徳本山植諸院

たいがんじ



※藤まつり期間中の駐車は、
第二・第三駐車場をご利用ください

宗教法人 **太巖寺** (通称・藤の寺)

〒519-0162 三重県亀山市住山町 273
TEL/FAX 0595-82-0824

太 巖 寺 検索 

寺紋「立葵」

宗紋「月影杏葉」





太巖寺縁起

太巖寺は奈良時代、行基菩薩によって開創されました。
往古は寺領が三百七十余石で、六十有余坊の大伽藍の大寺院でした。
その後、江戸時代の初期、浄土宗中興の祖と言われる総本山知恩院第三十二世靈巖大和尚の高弟・徳連社本誓太巖大和尚により浄土宗に改められこの地に再興開山されました。

現在の本堂は、嘉永四年（一八五一年）太巖寺第二十一世重連社恩譽懷罔和尚によって再建されています。再建当時、すでに境内には藤の太木があり、俗に「藤の寺」と言われていたと記録されています。

（佛教大学佛教文化研究所編

『新浄土宗辞典』）

また明治初年には、相撲力士 明星岳が「藤の木の如く粘り強く逞しく、長く立派な花を咲かせるような関取になれるように」と、藤の苗木を植え、仏前にて祈願したとも伝えられています。当時境内には藤棚が四本あり、そのうち一本は白藤だったと伝えられています。

昭和期に入り、戦争激化のため、物見遊山が禁止された際、太巖寺の四本の藤の木も一本だけの残し、全て切り落とすこととなりました。残された一本の藤の木も二間四方から畳二帖分に縮小されましたが、戦後、寺世話の方々を始めとして、檀家の皆様の長年のご尽力により、現在の藤棚に再建されました。